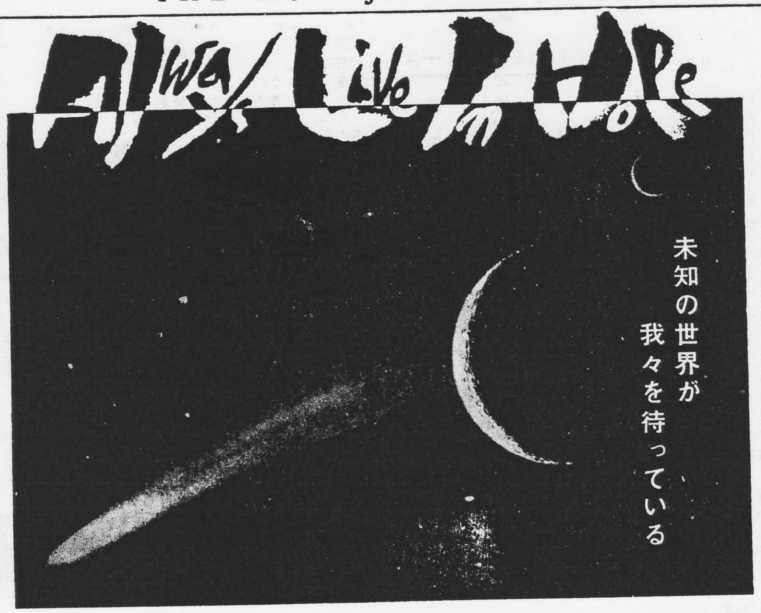
校友時報

昭和37年12月3日
臨時人事異動届出所
秋田県立能代高等学校長
印刷所 大藤堂印刷所



今日第十五回卒業式を挙行

三十七年度卒業式が、松の緑と残雪の美しく映える今日、三月六日行われる。卒業生は二百四十八名（うち女生徒十二名）新制第十五期生にあたり、本校も創立以来三十七年の歳月が流れたわけである。未来に向って巣立つ若人と共に、本校の歴史は作られて来た。ここにまた新しい年輪がきざまれたのである。例年のことながら、受験のため約百名しか参列できないのがさびしい。

卒業生と今年一年

今年一年間、卒業生は最上級生として下級生をリードし、数々の功績を残した。

まずはじめにあげられるのは柔道部であろう。昨年度はそれほど期待されてなかったにもかかわらず、今年度は最近まれな活躍ぶりをみせた。総体、県北で本校初の優勝を成し遂げ、主将の大山選手は個人戦の重量級で優勝インターハイでも個人二位に喰い込み、我が校の歴史に新たなページを加えた。

またバレー部も予想以上の活躍であった。インターハイでは惜しくも敗退したが、二二、三年まれな、三年生八人、二年生五人、一年生一人という充実したメンバーが大きな力となっていた。キャプテンの八木、勝長選手などのうまさも活躍の大きなカギであった。

今年は体操部、硬式野球部などがふるわなかった。しかし野球部の小山投手は切れの良いボールを持って三年生として、キャプテンとして十分活躍した。両者ともに二年生が多いので後輩の活躍が期待される。

文化面では最大行事である能高祭が行われた。各文化部も例年以上の充実、活発さをみせた。

能高祭に対する生徒の無関心の中で、福田前生徒会長はじめ企画部の面々の手腕はすばらしかった。

皆勤賞受賞者

今年度の皆勤賞受賞者は次の十六名である。皆勤賞とは三年間、無遅刻、無欠席で通した人に与えられるもので、今日の式場で表彰される。

三A 柴田邦夫 佐藤英明 小西玄晃
三B 大友靖夫
三C 斎藤元彦 成田茂三 庄内重樹 梁瀬玉枝
三D 安藤祐一 大高多雄 佐藤哲昭
三E 工藤敏雄

大山二賞に輝く

高体連の激励賞と県のスポーツ栄光賞の受賞者が発表された。本校では大山保夫君が両賞とも受ける同君は柔道部のリーダーとして活躍、総体では個人優勝、インターハイでは個人三位というみごとな成果をおさめた。受賞は当然といえよう。

論説 忍耐が全ての扉を開く

卒業おめでとうございます。

月並な言葉ではあるが、今はこれがやはり一番ふさわしいようだ。今日で一生において心身の形成に最も重要視すべき高校生活三年間を終了となる訳である。卒業生諸兄の気持も今や感無量の一語と推察する。

ところで諸兄は改めて高校卒業であることを認識してもらいたい大学進学、就職とおのおの独自の進路をとろうとも、九年間の義務教育を修得した後、さらにもう三年間の特別教育を受けたのである義務教育のみにとどまった人々よりは、実社会に出る際の実力が一段と向上していることは言うまでもなかろう。したがって終了した三年間の諸経験を十二分に活用し、それなりの力を発揮してもらいたい。卒業というものの人生の卒業にあらず、修業はこれからである諸兄の現在までの生活たるものは、多方面にわたっといってもまだまだあまいといえよう。年令から不可能なのかもしれないが。そしてまた在学中の責任をおのれ一人にでとれなかったことも多かったと聞く諸兄は今未知の世界へ独立した個人として飛び込もうとしている。自身は変らずとも世間のおのれに対する態度が一変するのに、どれほどとまどうことであろうか。

しかし賢明なる諸兄能高魂もすわったことであろう。常に希望をもち、常に前進をつづけてほしい。イタリアに生まれ、生理学者フォンターヌが自身への教訓として人生観としていた「忍耐はすべてのとびらを開く」という言葉の「忍耐」とは前進の積み重ねという意味ではないだろうか。たまには休養も必要であろうが、有効な休養これもまた前進の一つであることは無論である。「一時も無駄のないように」とでも言おうか。我々も諸兄が、より高くしっかりと積み上げた「能代高校の伝統」を受けてこれから何かを学びとり、誇りとしてさらに高くも上げることを誓い、はぐくむの言葉としたい。

卒業生諸兄がよりおのれをみがき上げ社会に必要欠くべからざる人間になること確信しております。

× ×

三点

去年の十一月木曽御岳の遭難は訓練された大学山岳部とは趣を異にするが、吹雪の中で死線をさまよう二人が、一枚の雨一羽を奪い合い、これを手離さなかった万が生き残った。本人の日記が物語る。

こんな時、きまって引き合いに出されるのに、横有恒の名著「一遍」である。大学山岳部員十三名が遭難した。大がかりな捜索を行なったが手がかりのないまま春に持ちこされた。その三日は乾いたセーターを置いて救いを求めに下り、誰もいなかった湯を魔法瓶につめてこれは訓練された大学山岳部とは趣を異にするが、吹雪の中で死線をさまよう二人が、一枚の雨一羽を奪い合い、これを手離さなかった万が生き残った。本人の日記が物語る。

こんな時、きまって引き合いに出されるのに、横有恒の名著「一遍」である。大学山岳部員十三名が遭難した。大がかりな捜索を行なったが手がかりのないまま春に持ちこされた。その三日は乾いたセーターを置いて救いを求めに下り、誰もいなかった湯を魔法瓶につめてこれは例がある。門出にあたって、改めて友達、友情ということについて考えておいていいのではないか。きびしくなるこれからの人間関係に一人一人のありようが社会を明るくも、暗くもする。いや自分自身を弱くも、強くもする。

（顧問）

▼三年生はめでたく卒業となったきょうで三年間の高校生活に別れを告げ新しい社会へ一歩踏み出すわけである。そして、個人、個人がまずまずとは比較できないほどの責任ある立場におかれ、責任ある行動を取らなければならなくなった▼だが、最近の世の中は「自分の行為に責任を持てない、いわゆる無責任な人間がめっきり多くなったと言われている。そして「無責任時代がやって来た」などとはやされた。実際高校生の我々にとっても「責任」一無責任」という言葉が妙の外強く入り込んできた▼前にある新聞に「私たちの責任」と言う特集記事がのっていた。これは「責任」に関連した話をいろいろとあげ、批評したり解説したりしているものだった。「薬や電気器具のキャッチフレーズが余りあてにならなかった」という金、恋人など）ならきれいさっぱり忘れても結構。

評時

一月の薬師岳、愛知「板倉勝見君の死」（「山行」）大学山岳部員十三名が遭難した。大がかりな捜索を行なったが手がかりのないまま春に持ちこされた。その救いを求めに下り、誰もいなかった湯を魔法瓶につめてこれは乾いたセーターを置いて

達

一体どんな姿で発見されることになるか、当事者は気が気であるまい。最後の様子が、せめてもの慰めになろうし、逆に世の糾弾を浴びることにもなろう

友

去年の十一月木曽御岳の遭難は訓練された大学山岳部とは趣を異にするが、吹雪の中で死線をさまよう二人が、一枚の雨一羽を奪い合い、これを手離さなかった万が生き残った。本人の日記が物語る。

こんな時、きまって引き合いに出されるのに、横有恒の名著「一遍」である。大学山岳部員十三名が遭難した。大がかりな捜索を行なったが手がかりのないまま春に持ちこされた。その救いを求めに下り、誰もいなかった湯を魔法瓶につめてこれは乾いたセーターを置いて

彰三郎

倉の頭に自分の頭を擦り付けて温める。

「四十時間にわたる遭難中にあって微頭徹尾協同と友の安危のために終始した」

高橋

縁起でもない話だが、堅い雪の山友達で前のような屠場で死ぬ。

「薬や電気器具のキャッチフレーズが余りあてにならなかった」という話。最近の山の遭難事故を「登山者が山を知らない無責任さから来る」といった話等、読んでいて面白かった。しかし「責任」「無責任」に関した問題は我が能高内においても、見受けられるのではないだろうか。▼早い話牛乳ビンについてはどうか。放課後各教室の中には必ずと言ってもよいほど空の牛乳ビンが散らばっている。空ビンは牛乳を買った者に「責任」を持って牛乳屋さんに返してもらうはずだった。いや必ず返さなければならないのだった。それがこんな状態にあるのはいったいどうしたことだろう▼我々はこんな例を上げるまでもなく「責任」という言葉を一度じっくりと考える必要がありそうだ。三年生の卒業、そして一、二年生はそれぞれ二、三年生に進級し、それだけ一箇の社会人としての認識が高まっていく。人間としての認識が深まっていく。しかしもし世の中は無責任時代だから責任という物は問題ではない」と言う人が居れば一体どうなることだろう。

自然、環境に留意を

学校長 高柳信一

郷里を遠く離れて外に出る時「水に気をつけるんだよ」と、昔はよく言われたものだ。この時の水は、単に飲料水だけを意味したのではなく、飲食物は勿論広く生活環境を含めたものと考えたい。一日も欠かすことの出来ない水でもって、すべてを代表させたと思えば上水道の発達した現在でも立派に通用する言葉である。

高校卒業後は就職するにしろ、進学するにしろ、多くの人は故郷を去って環境の異なった所で生活することになる。個人もたるや、その力で変えることも可能のものもあるが殆んど不可能なものが多いだけに頭を働かせて善処する必要がある。例えは四六時中御厄介になっている空気をあげて考えてみてもよい。日光の恩恵こそ少ないが我が郷土の空気は実に奇麗で、しかも甘い。殊に冬のそれは素晴しい。こういう所に生活出来る人は考えてみれば実に幸いであると云うべきであるが、それに気づくのは空気の汚染の甚しい大都会で生活してからである。この時に自ずからその対策は生れて来るかと思うが、又生み出すよう努力しなければいけない。自分を見詰め、自分を取巻く人間関係は勿論、人工の、そして自然の環境に留意したいものである。

◎異なった所で生活

◎そしてその環境

大サービス
実物よりよく写る
デンスケカメラ

'63年フルーツカラーにのせて
ブラウス・レインコート・花園展開催
ジュニアの店
菊宏 T {793 2117

良い学用品で
成積向上間違いない
キムラヤ
新銀座通り TEL 1362

近視・オシャレに
カモヤのメガネ
新銀座 T464

就職、受験、卒業、記念の写真は
学生割引き期間を！
—3月15日まで—
写真 唐津 T 339・2155

ステレオ
勉強の能率を上げる為にも
是非ステレオを
楽器の店 アサヒ（畠町 T 640）

上の写真は「宇宙の天望」提供